

Title	中小企業の"元気"の源とは何か
Sub Title	
Author	吉嶋, 稔幸(Yoshijima, Toshiyuki) 河野, 宏和(Kono, Hirokazu)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2010年度経営学 第2599号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2599

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

80931296

吉嶋 稔幸

主査

副査 1

副査 2

河野 宏和

坂爪 裕

大藪 毅

研究テーマ

中小企業の“元気”の源とは何か

内容の要旨

本研究は、日本の第二次産業を支える中小企業に着目し、その活性化に貢献することを目的としている。

筆者は、大学院経営管理研究科に入学するまで、前職のメーカーにおいて、親会社と下請けの関係性について疑問を抱いていた。また、リーマンショック後に実家を含めた地元の産業が大きな打撃を受け、中小企業しかない地元の雰囲気は沈んでいく様を目の当たりにしたことで、中小企業の助けになる方策を考え始めた。日本における中小企業の経営指標を見ても、倒産件数が高止まりしている中で、中小企業が全企業に占める雇用人数および付加価値額に占める割合は大企業を大幅に上回っており、中小企業が元気になるれば日本経済全体が活性化されると考えられる。

以上の問題意識に立って、中小企業が元気になるためには、業界・業種を超えて共通する源があるのではないかと考え、それを探求するために、インタビューをベースに考察する研究作業を行った。まず、元気の基準を定め、その基準に沿って調査対象企業を選定した。次に、それらの対象企業のトップである社長にインタビューし、誘導尋問とならないようにフリートークでこれまでの課題と苦労を中心に語って頂いた。その後、社長を支える補佐役の「片腕」、現場の責任者クラスの「キーマン」の2人にインタビューを行い、各人の「考え」、「行動」、それが起こる「状況」とその行動の「結果」という4つの因子に着目し、インタビューのスク립トから4つの因子に相当する発言を全て抽出した。続いて、それらの抽出された発言を、ポジティブな発言とネガティブな発言に分類した。

こうした準備作業の後、まず、インタビューした5社のトップ間の「考え」と「行動」を対比し、元気の源となる要因を考察した。その結果として、トップ歴が長ければ、その地位は安泰であるということから、次世代の後継者育成を視野に入れながら、社員と積極的にコミュニケーションをとり且つ

社員に考えさせるように考え、行動していることがわかった。さらに、上記の4つの因子が、トップ、片腕、キーマンの3者間の関係に着目したとき、トップと片腕あるいはキーマンの2者間、あるいはこれら3者間で、どのように関係し合っているかを分析した。そこから、トップの考えや行動の影響は大きいものの、片腕、キーマンからも進言・諫言を行えるような関係性が重要であることがわかり、この関係性こそが元気の源ではないかという仮説的な結論が得られた。